

こども防災大学

横須賀市北消防署

1 はじめに

横須賀市は神奈川県南東にある三浦半島の中央部に位置し、東は東京湾、西は相模湾に面しています。面積約100.68km²、人口約43万人の中核市であり、都市機能と自然がうまく調和している比較的自然災害の少ない街です。市内の中央部には米海軍横須賀基地もあり、市の総合防災訓練やこども防災大学のカリキュラムのなかで消防行政に協力していただいています。

横須賀市消防局は3署・1分署・8出張所・1派遣所で構成され職員数は441名で、北消防署には2つの出張所（追浜出張所・長浦出張所）が管轄下にあります。また、横須賀市消防団は1団・41分団・1音楽隊であり、消防団員は定員数970名、実員数894名で構成されています（平成21年4月1日現在）。ちなみに北消防署が所管している消防団は、北郷地区の第6.第7.第8.第9.第10分団です。

横須賀市では、本市の都市像である「国際海の手文化都市」を防災面から実現するため、まちづくり政策として「安全で快適に暮らせるまち」を掲げ、その実現に向け多くの施策を推進しています。

2 こども防災大学について

横須賀市は自主防災組織の結成率が、98%を超えるなど防災意識が高い地域特性があります。しかし、近年、地域防災活動を担う地域住民の高齢化が進み、地域の安心安全を確保し防災力を向上するための次世代を担う人材の育成が課題となっています。また、以前に国の中央防災会議の中でも、防災教育をこどもの頃から行うことが必要であるという議論がされていたことから、北消防署では次世代の地域防災活動を担う人材育成として、こども達を対象とした「こども防災大学」を企画し平成14年から取組みました。



耐震実験（横須賀市自然人文博物館）



初期消火体験（米海軍基地消防隊）

「こども防災大学」は北消防署管内すべての小学校（全9校）5年生を対象として、防災全般に関する正しい知識・技術・警戒心を高めるとともに、こども達を通して地域や家庭に防災思想の普及を行い、将来に向け多くの防災リーダーを育成することを目的に、防災を学び体験する活動を行っています。

授業は、さまざまな防災分野の専門家に講師を依頼し、およそ3ヶ月の間（主に夏休みや土曜日

を利用した日程）に8回のカリキュラムを組み、研修・講習・模擬体験を取り入れています。

これまでの学習内容を一部ご紹介します。例えば博物館学芸員の授業では、過去の文献から以前横須賀でどのような災害が起きたか、またそこから何を学び、何を備えるべきなのかなどのお話が行われます。米海軍消防隊の授業では、日本では普段学べないアメリカ式の危機管理術を学びます。「米軍基地消防隊Great Escapeプログラム」では



ロープワーク体験（横須賀市立夏島小学校）



消防車両乗車体験（米海軍基地消防隊）

火災時のサバイバルを基地内の訓練施設で実際に体験し、「もし洋服に火がついたら？」ではStop,Drop&Roll（止まれ、倒れろ、転がれ）を合い言葉に、服に移った火の消し方を学び自分で対処できるように訓練します。ほかにも地震のメカニズムや耐震補強実験実習、救命講習、火災時の避難方法、1泊2日の避難所体験では自衛隊や水道局の協力を得て、非常食を食べる体験や、給水車による水の配給などの避難所での生活ルールを体験するなど、防災に関して総合的に学ぶ内容となっております。

こども防災大学を卒業した児童には「こども防災博士」の称号を授与し、こども防災博士の数は、平成14年からの7年間で300名を超え、こども防災大学の活動は着実に地域に根付いています。このような未来の防災リーダーを育成することを目

的とすることも防災大学の活動は、将来の防災体制の充実に大きく寄与するものとして評価され、平成15年度・18年度には「防災まちづくり大賞」において、優良事例として全国に紹介され、19年度には第12回防災まちづくり大賞消防庁長官賞（一般部門）を受賞し、さらに、7年間の継続した活動の功績が認められ、平成20年には防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。

3 今後の取組み

平成21年度からは、北消防署のみでの事業ではなく、横須賀市の全ての小学校5年生を対象とした事業に拡大し、より多くのこども達が防災に関心を持ち、将来、防災リーダーとして家庭や地域を支えてくれるよう、継続して取組んでいきたいと考えております。